

大山街道の街なみ作法 ～おすすめデザイン～

大山街道では、現代的な街なみの魅力を高めながら、その中に、かつての歴史的な街道における街なみづくりの精神(和の心)を取り入れることにより、魅力的な街なみを目指したいと考えています。

大山街道の街なみ作法による街なみのイメージ

バルコニーを建物のフレームの中に組み込んで一体化することにより、外壁を整えることができます。

マンションや事務所等の現代建築でも、高さの間口を分節化することにより、宿場町のような人のスケール感にあった秩序ある街なみをつくることができます。

伝統工法の軸組をイメージしたフレームの強調や、ベランダや開口部における和風の格子手摺や格子窓の設置により、和の知恵を活かした秩序ある街なみをつくることができます。

ショーウィンドウなどにより1階はもてなしと賑わいのしつらえとすると、効果的です。



軒を設けると、人のスケール感に合った秩序をつくることができます。

街道に面して小さな緑の空間をつくると効果的です。

垂幕やのれんを設置すると、和の知恵を活かした賑わいづくりを行うことができます。

3階以上は明るく軽快な色彩デザインで空に溶け込ませます。



高さの間口の分節化による宿場町のような人のスケール感にあった街なみの創出

フレームの強調や、細かなたて棧の手すり・格子を用いた開口部の工夫による和の知恵を活かした秩序ある街なみのデザイン

和の素材を想起する色彩による落ち着いたデザイン

街道に面した積極的な緑化

1階部分のもてなしの空間づくり

街なみは2階までの外観でつくります。

大山街道の街なみづくりは、下記の8つの作法によって行うものとします。また、大山街道らしさを“現代的な魅力”と歴史性からくる“和の心”の両面からつくるため、それぞれの作法の中に、「現代の街なみの魅力を高めるための基本の作法」と「和の街なみを意識した応用の作法」を設けます。

作法1 人のスケール感に合った秩序ある街なみづくり (p14)

- 基本** ①街なみは2階までの外観でつくる
 ②間口が広い場合の分節化
 ③バルコニーと外壁のデザインの一体化
- 応用** ①軒・庇、フレームや開口部等の工夫による和のデザインを活用した街なみの演出



作法2 落ち着いた色彩による街なみづくり (p15)

- 基本** ①景観形成基準の色彩の基準の厳守による街なみづくり
 ②低層部と中高層部の外観を塗り分ける
 ③自然素材そのものの色の活用
- 応用** ①和の素材から想起されるテーマ色の活用



作法3 もてなしと賑わいの空間づくり (p17)

- 基本** ①景観形成基準の安全空間の確保と、もてなしと賑わいの空間の形成
 ②白を基調としたセットバック部分の舗装による街なみづくり
- 応用** ①和の街なみを意識したもてなしのしつらえづくり



作法4 暖かみのある灯りの活用 (p18)

- 基本** ①暖かみのある照明の活用
- 応用** ①和のデザインの灯りの活用



作法5 緑豊かな街なみづくり (p18)

- 基本** ①街道に面した部分の積極的な緑化
- 応用** ①街道に面した小さな緑のしつらえ



作法6 魅力的な看板や装飾の活用 (p19)

- 基本** ①景観形成基準の広告物の基準の厳守
 ②広告物の集約化と、節度ある大きさ、色彩の選択
 ③設備類の修景
 ④建物と一体的にデザインされた落ち着いた色彩の自動販売機
- 応用** ①木製の看板や垂幕、のれんなどの設置
 ②和を想起する中彩度、中明度の色彩の活用



作法7 向こう三軒両隣の街なみの調和 (p22)

- 基本** ①向こう三軒両隣を意識した建物のデザイン
- 応用** ①向こう三軒両隣を意識した和のしつらえ

作法8 身近なしつらえによる街なみの魅力づくり (p22)

- 基本** ①もてなしの空間を演出する身近なしつらえ
- 応用** ①もてなしの空間を演出する和のしつらえ



作法1 人のスケール感に合った秩序ある街なみづくり

建物の空間構成や外壁のデザインを工夫すると、人のスケール感に合った秩序ある街なみをつくることができます。

■現代の街なみの魅力を高めるための基本の作法

①街なみは2階までの外観でつくる

低層部(1、2階)と中高層部(3階以上)で建物のデザインを切り替えることによって2階までの外観で街なみをつくり、3階以上は空と調和するような外観にすると、宿場町のスケール感をつくり出すことができます。また、1階と2階の間に高さをそろえた軒やはり出し等を設けることが効果的です。

②間口が広い場合の分節化

間口の広い建築物は、分節化することにより、長大感を減らせます。

③バルコニーと外壁のデザインの一体化

開口部やバルコニーを設ける際は、建物のフレームの中に組み込んで一体化させるなどすると、外壁面を整えることができます。また、一体化したバルコニーは、物が落下しにくい形態でもあります。



意匠や色彩の変化により、2階までの外観を強調し、3階以上の部分と区別しています。間口も柱によって分節化されています。



外壁の構成要素として一体的にデザインされたバルコニー

■和の街なみを意識した応用の作法

①軒・庇、フレームや開口部等の工夫による和のデザインを活用した街なみの演出

和の軒・庇や伝統工法の軸組をイメージしたフレームの強調などによる分節化を行ったり、開口部に、格子などを用いることによって、和の知恵を活かして街なみを整えられます。



和の庇を用いた事例



格子などを用いた開口部の事例



軒・庇を用いた駐車場の修景

※格子は街道を通る人の目線と直角になる縦格子を用いるとプライベート空間を効果的に隠すことができます。格子の間隔は建物の使い方により適度なものを選択することが効果的です。

作法 2 落ち着いた色彩による街なみづくり

大山街道の歴史的な雰囲気と調和した落ち着いた色彩による街なみづくりを目指します。

■現代の街なみの魅力を高めるための基本の作法

①景観形成基準の色彩の基準の遵守による街なみづくり

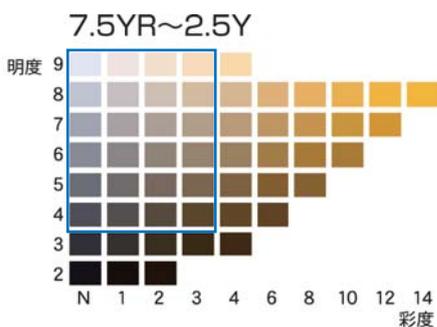
景観形成基準の色彩の基準を遵守し、隣接する建物と調和した色彩を選択すると、調和のとれた街なみとなります。

<参考>	●色相の範囲	●明度・彩度の範囲	
景観形成基準 色彩の基準	7.5YR ~ 2.5Y あたたかみのある YR (イエローレッド)から Y (イエロー)の範囲 ※無彩色も使用する ことができます。	低層部 (2階以下かつ高さ10m以下) 明度 4.0 以上 彩度 3.0 以下	中高層部 (低層部に含まれないもの) 明度 6.0 以上 彩度 3.0 以下

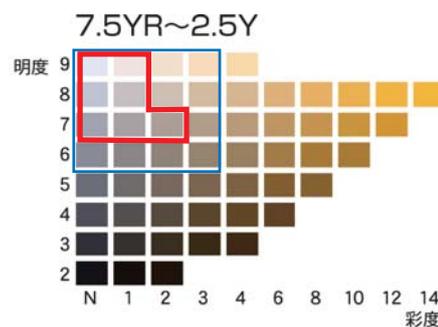
②低層部と中高層部の外観を塗り分ける

2階までの外観で街なみをつくるには、低層部(1、2階)と中高層部(3階以上)の外観の色彩を塗り分けると効果的です。中高層部の色彩は、低層部より高明度または低彩度の色彩(下記の推奨範囲の色)を用い、空に溶け込ませるとともに低層部では、中高層部より低明度または高彩度の色彩を用いるなど、低層部と中高層部を塗り分けることにより、宿場町のスケール感に合った街なみをつくり出すことができます。

低層部 (1、2階)



中高層部



□ 基準範囲
(景観形成基準)

□ 推奨範囲

③自然素材そのものの色の活用

かつての宿場町の街なみは、木、石、土などの自然の素材で構成されていました。現代の街なみにおいても、これらの自然素材を積極的に利用することにより、落ち着いた深みのある雰囲気を作ることができます。

■和の街なみを意識した応用の作法

①和の素材から想起されるテーマ色の活用

低層部（1，2階部分）については、大山街道の歴史的建造物などに見られる「白漆喰の白」、「石の灰色」、「土壁の黄土色」、「木の焦げ茶色」、「瓦の鼠色」の中から下記のテーマ色を選定し、基調色と強調色を組み合わせることで伝統的な軸組工法を想起させる配色を行うことにより、街なみを整えることができます。（下図を参照）

なお、原則として、景観形成基準における色彩の基準外の色はアクセントカラーとし、各面の1/5以下まで使用可としますが、色の組み合わせや素材を工夫して良好な色彩デザインとした場合は、1/5を超えて使用できるものとします。

※以下の色彩例のマンセル値は例示です。近似色についてもテーマカラーとして活用してください。

基調色として用いるテーマ色

白漆喰の白



色彩例



10YR9/0.5

石の灰色



色彩例



10YR7/0.5

土壁の黄土色



色彩例



10YR7/2



2.5Y8/1.5



2.5Y7/2



10YR6/4



10YR7/5



2.5Y7/4

※彩度4を超える色彩を用いる場合は、光沢感のある素材の使用を避けることを推奨します。

強調色として用いるテーマ色

木の焦げ茶色



色彩例



5YR2/1



5YR3/1

瓦の鼠色



色彩例



10YR4/0.5 ~ 10YR5/0.5

※自然界の色に無彩色（N：ニュートラル）はありません。無彩色に近い、白漆喰や瓦の色もわずかに色味を帯びています。

マンセル値の読み方

5YR2/1

色相 明度 彩度

効果的なテーマ色の使い方（伝統的な軸組工法を想起させる配色）



基調色：壁など面になっている部分には基調色を用います。

強調色：柱や格子、窓枠などの面積が狭い部分には強調色を用います。

作法3 もてなしと賑わいの空間づくり

建物の用途に応じ、それぞれ適した形で外に開かれたものにとすると、もてなしと賑わいの空間をつくれます。

■現代の街なみの魅力を高めるための基本の作法

①景観形成基準の安全空間の確保と、もてなしと賑わいの空間の形成

景観形成基準の安全空間の確保と併せて、1階の店舗やセットバック部分に憩えるしつらえを設けることにより、街道に対してもてなしと賑わいの空間をつくることができます。



1階にショーウィンドウを設けたり、店舗やマンション入口に小さなオープンスペースや植栽を設けた事例

開放的な中庭を設けて、憩いの空間を提供している事例

②白を基調としたセットバック部分の舗装による街なみづくり

セットバック部分の舗装面は、大山街道の神社仏閣などの参道に用いられている御影石を想起させる白を基調とした石やタイルを用いると、大山街道らしいしつらえとなります。



溝口神社の参道



宗隆寺の参道



御影石を想起させる白を基調とした舗装の事例

■和の街なみを意識した応用の作法

①和の街なみを意識したもてなしのしつらえづくり

1階部分や足下(舗装面)では、和の街なみを意識したしつらえにより、もてなしの空間が演出できます。



和のデザインによるもてなしの空間の事例

作法 4 暖かみのある灯りの活用

色温度の低い照明を用いると、暖かみが感じられる街なみとなります。

■現代の街なみの魅力を高めるための基本の作法

①暖かみのある照明の活用

外壁照明や開口部から漏れる灯りは、3,000K 以下程度の色温度の低いものを用いると、行灯のような暖かみが感じられます。



■和の街なみを意識した応用の作法

①和のデザインの灯りの活用



和のデザインの灯りによる風情のある街なみ

作法 5 緑豊かな街なみづくり

街道に面した部分を緑化すると、緑が連続する街なみになります。

■現代の街なみの魅力を高めるための基本の作法

①街道に面した部分の積極的な緑化



街道に面した様々な植栽の事例



壁面緑化の事例

■和の街なみを意識した応用の作法

①街道に面した小さな緑のしつらえ



店先に小さな緑の空間を設けた事例

作法 6 魅力的な看板や装飾の活用

魅力的な看板や装飾を用い、設備は極力みせないようにすると、歴史的な雰囲気に調和します。

■現代の街なみの魅力を高めるための基本の作法

①景観形成基準の広告物の基準の遵守

<参考>景観形成基準：広告物の基準（要旨）

- ・ 広告物は極力集約化し、過大なものを設置せず、周辺に調和したものとします。
- ・ 屋上広告物や点滅する広告物、ネオン管の露出する広告物は、原則として設置しないものとします。
- ・ 色彩は3色以内とし、周辺に調和したものとします。ただし、コーポレートカラーの使用はやむをえないものとします。
- ・ 突出広告物の取り付け位置の下端高さは、2.5m 以上、出幅は 0.9m 以内とします。

【日除けテントの基準】

- ・ 色彩は、周辺建物との調和に配慮して、過度に目立つものを使用しないものとします。
- ・ 設置は、必要最小限の範囲とします。

【自動販売機の基準】

- ・ 自動販売機は、周囲の環境に配慮したデザインを使用するものとします。
- ・ 自動販売機の色は、建築物の基調色を意識したものとします。

②広告物の集約化と、節度ある大きさ、色彩の選択

広告物の種類に応じて、以下の表のように推奨します。

<p>共通</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 文字は極力少なくし、ロゴマークやピクトグラムを用い、店舗の個性を視覚的に表現することを推奨します。・ 広告物に地（背景）を設ける場合、文字と地（背景）が面として一体的に見えるように、文字列の周囲に十分なスペースを取ることを推奨します。・ 自店舗以外の屋外広告物の掲示は避けます。・ 箱型内照式は避け、切り文字または板型外照式を推奨します。	   
-----------	--	--

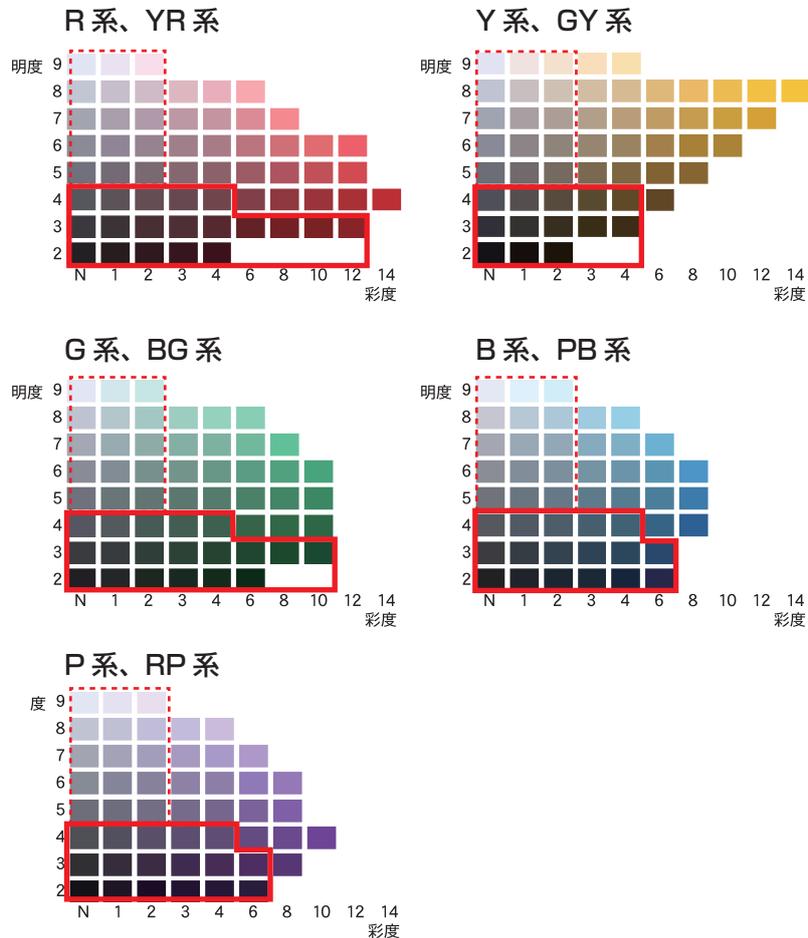
良い例

悪い例

板型外照式の広告物

- ・ 広告物に地（背景）を設ける場合、色は原則 1 色とし、色彩は以下のマンセル値の範囲内（実線 ）とすることを推奨します。
- ・ 地（背景）の色彩が以下のマンセル値の範囲（）を外れる場合は、地（背景）の色彩は彩度 2 以下（）の範囲）とすることを推奨します。

地（背景）の色彩の範囲



屋上
広告物

- ・ 景観形成基準を遵守し、原則設置しません。

突出
広告物

- ・ 景観形成基準を遵守し、出幅は 0.9m 以下、下端の高さは 2.5m 以上とします。
- ・ 3 階以上の部分への設置を避けます。
- ・ 1 壁面につき 1 ヶ所に集約化することを推奨します。

壁面
広告物

- ・ 切り文字の場合を除き、3 階以上の部分への設置を避けることを推奨します。
- ・ 広告物の面積は、各階の壁面の面積の 10% 以下にすることを推奨します。
- ・ 1 店舗につき 1 ヶ所にすることを推奨します。

切り文字の壁面広告物の例



窓面 広告物	<ul style="list-style-type: none"> ・切り文字式のを除き、原則設置を避けることを推奨します。 <p style="text-align: right;">切り文字式の窓面広告物の例</p>	
地上設 置廣 告物	<ul style="list-style-type: none"> ・1敷地につき1ヶ所に集約化することを推奨します。 ・高さ2.5m以下かつ幅2m以下とすることを推奨します。 <p style="text-align: right;">集約化された地上設置広告物の例</p>	
日除け テント	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を入れる場合は、文字高を0.2m以下とし、テント下端に記入することを推奨します。 ・窓全面を覆うことは避けます。 <p style="text-align: right;">テント下端に文字を記入した例</p>	

③設備類の修景

設備は通りから見えない位置に置くか、格子などで修景すると、街なみになじみます。

設備を修景した事例



④建物と一体的にデザインされた 落ち着いた色彩の自動販売機

自動販売機は建物の中に組み込むか、落ち着いた色彩にすると、街なみになじみます。



■和の街なみを意識した応用の作法

①木製の看板や垂幕、のれんなどの設置



木製の看板の事例

②和を想起する中彩度、中明度の色彩の活用



こんいろ
紺色



あいいろ
藍色



えんじいろ
臙脂色



ちやいろ
茶色

作法 7 向こう三軒両隣の街なみの調和

向こう三軒両隣の建物のデザインが関連性を持つと、その場に街なみの雰囲気をつくり出すことができます。

■現代の街なみの魅力をもとめるための基本の作法

①向こう三軒両隣を意識した建物のデザイン

建物をデザインする際は、自分の敷地の向こう三軒両隣の建物のデザインがどうなっているのかを意識し、色彩、素材、軒の高さなどについて良いデザインとなっている場合は、そのデザインを取り入れることができるかどうか検討します。調和のとれたデザインの建物が3軒並んでいると、それだけでも街なみの雰囲気を感じることができます。

■和の街なみを意識した応用の作法

①向こう三軒両隣を意識した和のしつらえ



隣り合う軒の共通の勾配と若干の高さの変化がリズムのある街なみをつくっています。



隣り合う建物の共通する壁面の素材や窓のデザインが街なみの雰囲気をつくっています。

作法 8 身近なしつらえによる街なみの魅力づくり

身近に取り組める街なみづくりのアイデアを紹介します。

■現代の街なみの魅力をもとめるための基本の作法

①もてなしの空間を演出する身近なしつらえ



店先を植物やベンチで演出した事例

■和の街なみを意識した応用の作法

①もてなしの空間を演出する和のしつらえ



垂幕やのれんを設置した事例



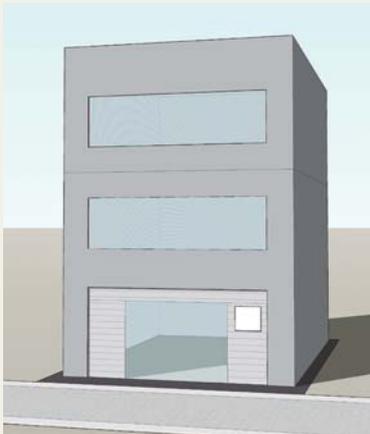
街道を演出する和の灯り

街なみ作法による建物のデザインのイメージ

小規模なビルを新築または改修する場合のデザインの事例

大規模なマンション等を新築する場合のデザインの事例

街なみ作法に寄らない通常の建物



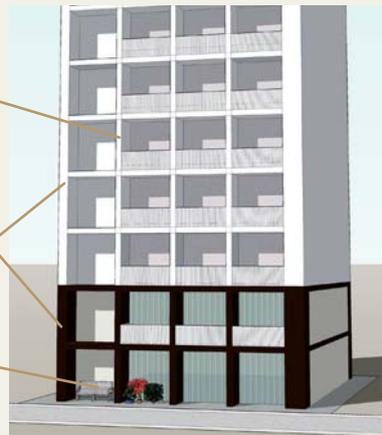
現代の街なみの魅力を高めるための基本の作法による建物



外壁と一体的にデザインされたバルコニー

中高層部と低層部の外壁の色彩デザインの切り替え

もてなしの空間の演出



和の街なみを意識した応用の作法による建物



和風の格子手摺や格子窓の活用

和の素材を想起するテーマカラーの活用

軒、のれんなどの和のデザインによる賑わいの演出



※新築の場合に限らず、外壁の塗り替えなどの改修の際にも街なみ作法に配慮することにより、大山街道らしい街なみをつくることができます。